

## シュロダー グローバル市場見通し

2021年  
5月

マルチアセット運用チームによる各金融市場の月次見通し

見通しの表示：++強気、+やや強気、0中立、-やや弱気、--弱気  
矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ

株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）
			
企業業績が堅調であることに加え、経済再開の動きも加速しており、金利も安定して推移していることが支援材料と考えています。引き続きシクリカル/バリュース株への選好を維持しています。	バリュエーションは僅かに改善しましたが、期待インフレ率の上昇が見込まれるほか、経済成長のモメンタムは国債にとってはマイナス要因となることからやや弱気の見通しを維持しています。	新型コロナウイルスのワクチン普及に伴う2021年後半の景気回復は、社債にもプラスの影響をもたらすと考えますが、足元、バリュエーションの魅力度は低下しています。	新型コロナウイルスのワクチン普及に伴い見込まれる経済活動の正常化や財政刺激策が、引き続き支援材料と判断しています。

資産クラス	分類	見通し
株式	米国	 企業業績が堅調である中、金融政策についても引き続き支援材料となっています。シクリカル/バリュース株を選好しています。
	欧州	 引き続き、欧州中央銀行(ECB)による支援策が下支えであるほか、新型コロナウイルスワクチン配布のペースが加速しており、夏に向けて経済再開が期待され、恩恵を受けることが見込まれます。
	日本	 輸出の拡大が進んでおり、景気回復の継続が見込まれます。ただし、新型コロナウイルスワクチン普及の遅れは懸念材料といえます。
	アジア太平洋 (除く日本)	 韓国/台湾の製造業見通しが堅調であり、高い半導体の世界需要に伴い在庫も低水準であることから、韓国/台湾への選好を維持しています。
	新興国	 バリュエーションは魅力的と判断しますが、新型コロナウイルス感染拡大や中国の景気刺激策縮小へ向けた動きが重しとなると考えます。




## シュローダー グローバル市場見通し




2021年  
5月

資産クラス	分類	見通し	
国債	米国		今後さらに利回りが上昇する可能性があるほか、インフレ懸念も残ることから、やや弱気の見通しを維持しています。
	欧州 (ドイツ国債)		利回りが低水準であることに加え、経済成長の加速がドイツ国債にはマイナス要因となることから、弱気の見通しに引き下げました。
	新興国 (米ドル建て)		高格付け債を中心に、引き続きやや強気の見通しを維持しています。
	新興国 (現地通貨建て)		ラテンアメリカを中心に調整が進み、バリュエーションの魅力度が上昇したことから、中立の見通しに引き上げました。
	インフレ連動債		景気回復や中央銀行の緩和姿勢を背景に、さらなる上昇が見込まれると考えます。
投資適格社債	米国		バリュエーションの魅力度は低い一方で、ファンダメンタルズは改善しています。金利上昇リスクには注視する必要があると考えます。
	欧州		米国投資適格社債市場と比較して、バリュエーションおよびテクニカル面の双方での魅力度が高いことから、やや強気の見通しを維持しています。
ハイールド社債	米国		需要/供給は堅調であります。バリュエーションが過度に割高な水準にあると判断することから、やや弱気の見通しを維持しています。
	欧州		新型コロナウイルスワクチン接種に加速がみられますが、経済復興策を巡る各国の協調姿勢の欠如は、デフォルト率を高める可能性があることが懸念材料といえます。

## シュローダー グローバル市場見通し

2021年  
5月

資産クラス	分類	見通し	
コモディティ (商品先物)	エネルギー		OPECプラスは段階的減産縮小で合意していますが、需要の回復に伴い、原油在庫は減少しています。
	金		↓ 経済成長率の上昇などを背景に、実質金利がさらに低下する可能性は低いと考えることから、見通しを中立に引き下げました。
	産業用金属		中国による需要は減速していますが、新型コロナウイルスの配布が進むにつれ見込まれる経済活動の正常化に伴い、中国以外の国々による需要の回復が見込まれます。

資産クラス	分類	見通し	
通貨	米ドル		↓ 引き続き、米国経済は力強い回復が見込まれますが、足元での米ドルの下落を考慮して、見通しを中立に引き下げました。
	ユーロ		新型コロナウイルスのワクチンの普及に伴い、今後経済回復を見込んでいますが、足元では中立の見通しを維持しています。
	日本円		米国における新型コロナウイルスのワクチン配布を巡る状況、期待される米国の高い経済成長、インフレ上昇を考慮し、やや弱気の見通しを維持しています。

出所：シュローダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デレギュレーション・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

**【本資料に関するご留意事項】** 本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュローダー/Schrodersとは、シュローダー-plcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。